

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 7 区分
 【発行日】平成 28 年 7 月 14 日 (2016.7.14)

【公開番号】特開 2016-50099 (P2016-50099A)
 【公開日】平成 28 年 4 月 11 日 (2016.4.11)
 【年通号数】公開・登録公報 2016-022
 【出願番号】特願 2014-177661 (P2014-177661)
 【国際特許分類】

B 6 6 F 7/16 (2006.01)

B 6 6 F 7/28 (2006.01)

B 6 5 G 47/52 (2006.01)

【F I】

B 6 6 F 7/16

B 6 6 F 7/28 Z

B 6 5 G 47/52 C

【手続補正書】

【提出日】平成 28 年 5 月 30 日 (2016.5.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

平行に配置された真直な 2 つの第 1 部材と、両端が前記第 1 部材と直角になるように前記第 1 部材に連結部材を介して着脱可能に連結された少なくとも 2 つの真直な第 2 部材とで重量物を載置するステージが形成され、

ロッドの先端が土台に設置されるように前記土台に垂直に 4 つの液圧シリンダからなる脚部が配置され、前記液圧シリンダのシリンダ本体が前記 2 つの第 1 部材のそれぞれの両端に着脱可能に取り付けられ、

前記第 2 部材の下面が前記第 1 部材の上面より低くされていることを特徴とするジャッキ装置。

【請求項 2】

前記連結部材は、前記第 1 部材に載置されて着脱可能に連結される水平部と、前記第 1 部材と前記第 2 部材の間に位置し、前記第 2 部材の端部に着脱可能に連結される垂直部とで逆 L 字形をなし、前記垂直部の下端に前記第 2 部材の端部を受ける突出部を有することを特徴とする請求項 1 に記載のジャッキ装置。

【請求項 3】

前記液圧シリンダのシリンダ本体にキャストと、土台に支持される支持台とが設けられて、前記液圧シリンダが垂直状態で自立可能であるとともに、傾斜状態で前記キャストが転動して移動可能であることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のジャッキ装置。

【請求項 4】

請求項 1 に記載のジャッキ装置を使用して重量物を第 1 搬送路から段差を経て第 2 搬送路に搬送する搬送方法において、

請求項 1 に記載のジャッキ装置を前記段差に隣接して設置する工程と、

前記ジャッキ装置の液圧シリンダを作動させて前記ジャッキ装置のステージを第 1 搬送路と同じレベルにする工程と、

前記第 1 搬送路から重量物を前記ジャッキ装置のステージに移動させる工程と、

前記ジャッキ装置の液圧シリンダを作動させて前記ジャッキ装置のステージを第 2 搬送路と同じレベルにする工程と、

前記ジャッキ装置のステージから重量物を前記第 2 搬送路に移動させる工程とを有することを特徴とする搬送方法。

【請求項 5】

前記ジャッキを設置する工程は、第 1 部材を平行に配置し、両端が前記第 1 部材と直角になるように前記第 1 部材に連結部材を介して少なくとも 2 つの第 2 部材を着脱可能に連結して、重量物を載置するステージを形成し、ロッドの先端が土台に設置されるように土台に垂直に 4 つの液圧シリンダからなる脚部を配置し、各液圧シリンダのシリンダ本体を前記 2 つの第 2 部材のそれぞれの両端に着脱可能に取り付けることを特徴とする請求項 4 に記載の搬送方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

前記課題を解決するための手段として、本発明に係るジャッキ装置は、

平行に配置された真直な 2 つの第 1 部材と、両端が前記第 1 部材と直角になるように前記第 1 部材に連結部材を介して着脱可能に連結された少なくとも 2 つの真直な第 2 部材とで重量物を載置するステージが形成され、

ロッドの先端が土台に設置されるように前記土台に垂直に 4 つの液圧シリンダからなる脚部が配置され、前記液圧シリンダのシリンダ本体が前記 2 つの第 1 部材のそれぞれの両端に着脱可能に取り付けられ、

前記第 2 部材の下面が前記第 1 部材の上面より低くされている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

前記液圧シリンダのシリンダ本体にキャストと、土台に支持される支持台とが設けられて、前記液圧シリンダが垂直状態で自立可能であるとともに、傾斜状態で前記キャストが転動して移動可能である。このようにすることで、ジャッキ装置の組立及び分解時に、液圧シリンダが倒れたりすることがなく、また液圧シリンダの移動も容易なので、作業が容易である。